

令和5年度

政策提言書

令和5年12吉日



観音寺商工会議所青年部
Kan-onji Young Entrepreneurs Group

令和5年度スローガン **変わろう 変えよう 今、私たちから**

— 存在意義を明確にし、その存在価値を高めるとき。 —

目次

はじめに	P.1
実現したい将来像.....	P.2
提言 01.	P.4
提言 02.	P.8
提言 03.	P.13
市内中学生からの叫び.....	P.16
政策提言活動のあゆみ.....	P.17
政策提言委員会メンバー一覧.....	P.21
参考資料.....	P.23

はじめに

いつの時代にあっても「困難なとき」は必ず存在し、誰しも避けられず、正面から受け止めねばならない試練であると思います。混沌とした日本、世界の社会情勢、経済情勢の中、ここ数年間は口を開けば、厳しく、苦しく、暗い言葉を交わすことが多かったのではないのでしょうか。

時を同じくして、地方自治体やその地域の経営者を取り巻く状況は、すでに「困難なとき」を迎えて久しいと言えます。日本社会全体で進む超少子高齢化の波はますます高く、大きくなり、いずれの地域においても、若者の流出、出生数の減少、限界集落の拡大など、多くの悩みを抱えておられます。また、そういった厳しい状況の中、経営者にとっては、いかに持続可能な事業を確立していくかが大きな課題として立ちふさがっております。

青年経済人たる私たちが考える今最も大切なことは、まず、目の前の現実を真摯に受け止めて理解し、次に、その現実に対して私たちができることを真剣に検討し、最後に、それを実際の行動に移すことです。過去や前例にとらわれず、失敗を恐れずに一步踏み出さない限り、不安や不平不満を口にするだけでは、何も変わらず、何も変えることはできません。

私たち観音寺商工会議所青年部は、困難な状況を真摯に受け止めて理解し、まず私たちが変わり、そして私たちが目の前の試練に立ち向かうことで現実を変えてまいります。その思いを込めて、『変わろう 変えよう 今、私たちから - 存在意義を明確にし、その存在価値を高めるとき。-』をスローガンとして掲げ、具体的な目的、目標に向かって活動して参りました。その具体的な目標の一つが、ここにまとめた「政策提言」であります。

本提言書は、観音寺市が掲げる『にぎわい やすらぎ ときめきの都市』と、観音寺商工会議所青年部が目標とする『定住人口の増加による持続可能な観音寺市の実現』を念頭に取りまとめをいたしました。25年後の将来においても、他人任せではなく、責任をもってこの提言を実行できる世代が中心となって考えております。不勉強による間違いや無謀な提案もあろうかと思いますが、観音寺市のことを想う気持ちに嘘や偽りはありません。何卒宜しくご査収いただきますようお願い申し上げます。

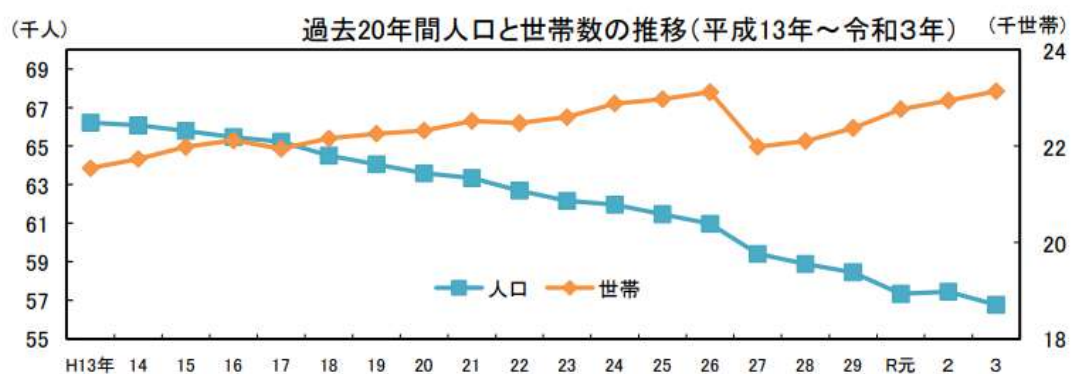
今回の政策提言の取りまとめに際し、ご尽力、ご協力いただいたすべての皆様に心から感謝を申し上げ、また本提言が素晴らしい観音寺市の将来を築くスタートになることを祈念し、政策提言書発行にあたってのご挨拶とさせていただきます。ありがとうございます。

観音寺商工会議所青年部
会長 庄司 晃弘

「選ばれる街」になり、 定住人口の増加による 持続可能な地方都市の実現。

- 令和5年10月1日現在の観音寺市の総人口は57,267人(うち外国人1,289人)、
ちょうど10年前となる平成25年10月1日現在の総人口は63,286人であり、
この10年間で約6,000人の人口が減少したことになります。

令和3年香川県人口移動調査では、人口56,765人であった。(下図は各年10月1日現在の数値)



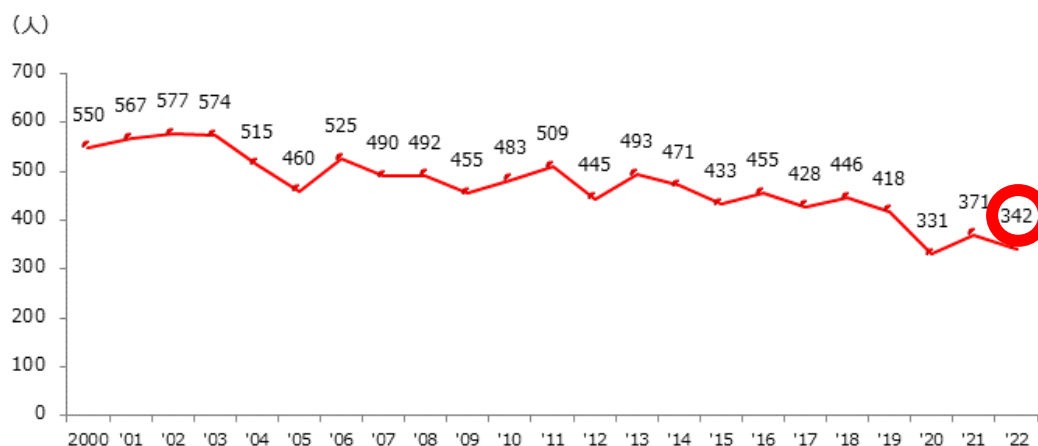
※引用元:「令和4年度版-統計かんおんじ」より

- 観音寺市の人口増加の要因となる出生数については、日本社会全体で進む少子化が顕著に表れており、令和4年の出生数は わずか342人となっておりま

す。将来の観音寺市を担うべき子どもたちの出生数が減り続けているという、
厳しい現実があります。

観音寺市の出生数の推移

(住民基本台帳ベース、日本人住民)



※1月1日から12月31日までの外国人を除く日本人住民の出生数。

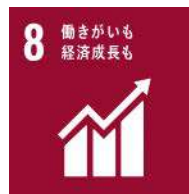
※市区町村の場合は2022年1月1日時点の市区町村境界。

© jp.gdfreak.com

※引用元：<https://jp.gdfreak.com/public/detail/jp010050000001037205/18>

- 現状、市の人口を増加に転じさせることはほぼ不可能といっても過言ではありません。行政サービスやインフラの維持を考慮すると、人口減少をいかに緩やかにし、人口規模をいかに維持していくかが重要であり、そのためには、観音寺市が推進されている「交流人口・関係人口の増加」を「定住人口の増加」へ繋げる政策が不可欠となります。
- 私たち観音寺商工会議所青年部は、青年経済人としての立場から、私たちが商いをさせていただく地元地域の将来が、私たちの企業・事業所の将来に直結すると考え、持続可能な街を実現すべく「定住人口の増加」を目標とする政策提言を行わせていただくことといたしました。

提言 01.



観音寺商工会議所青年部プロデュース！

中学生・高校生向け「将来のしごと発見」

及び 地元中小企業の活力創出事業の実施

【概要】

観音寺市内には豊富な雇用先があるのにも関わらず、人口減少(特に若者の流出)に歯止めがかからないのは、地元に戻りたい(移住したい)が、十分な給与をもらえる仕事がない、会社を知らない等の理由で地元就職をあきらめるケースが珍しくありません。そこで、このような機会ロスをなくすために、青年経済人である観音寺商工会議所青年部がプロデュースする中学生・高校生向けの「将来のしごと発見」事業、及びその就職先となるべき地元中小企業が元気であり続けるための活力創出事業の実施を提言いたします。

【提言内容（事業計画案）】

- 観音寺商工会議所青年部主催 “類を見ない”企業（しごと）説明会を開催、又は職業体験の機会を創出いたします。

子供達が観音寺市に将来戻ってきたいと思うきっかけは『街の魅力を知る』×『地元企業 の魅力を知る』ことから。学校では絶対に教えてくれない観音寺の歴史から学ぶ街の魅力と、観音寺商工会議所青年部の底抜けに明るく元気な人

と企業の魅力。将来この町で生きたい、住みたいと思うきっかけづくりを私たちが提案いたします。観音寺市におかれましては、当該事業に対するご後援（または共催）をご検討いただき、市ホームページや市報、公式 LINE、市役所内広告（スクリーン、掲示板等）での広報協力をお願いしたく考えております。

〔案1〕 『市長・教育長・全校長公認！中学生 自由研究課題：

親子でオープンバス乗って巡り学ぶ観音寺の“歴史”と“企業”』

※商いのネットワークを使って、学校、行政、民間企業、経済団体、様々な団体を横断した企業説明会を開催。

- ・中長期的に親から子へ、観音寺の歴史が代々伝えられていく仕組みづくりを構築する。
- ・地元有識者を選抜し、定期的に観音寺市の歴史に触れられる場を設ける。
- ・学生に観音寺市で働くこと、地元企業の可能性を知らせ U ターンの芽を育てることを目的とする。実際に U ターン、I ターン、事業承継、起業した人材との交流を生み出し各々の経緯と魅力を発信する。
- ・小学生×シニア、中高生×若手社会人など組み合わせを定期的に変えながら、偏りのない地域人材同士の交流をもつ仕組みづくりを行う。

〔案2〕 『企業説明なし！？ 将来のしごと発見ツアー』

- ・中学生や高校生に向けた、将来の仕事、生き方を発見するプログラム。
- ・企業の説明は一切なし、自分たちが社会人になること、働くことについて考えるきっかけとなること、そして、観音寺市にも当会メンバーのような個性あふれる魅力的な

社会人がいることを知っていただくきっかけとなることを目的といたします。

・ 当会メンバーによる以下のような各企画を実施したく考えております。

- 1) 先輩社会人としての思い&失敗経験から得た 成長や働きがい を伝える講演
- 2) 今から身につけておきたい！お金の話の講演
- 3) 勉強や部活動にも活かせる！目標達成のためのスケジュール&時間管理術の講演
- 4) 給食・おやつ：当会メンバー（飲食業・食品製造業等）の商品を提供

● 地元中小企業が積極的な採用活動を行うための支援体制を提案いたします。

地元で働きたいという若者の希望を叶えるためには、経済激変の中にあっても、唯一無二のビジネスモデルを確立する強い中小企業づくりが必要不可欠です。独創的なビジネスモデルの創出や、創業に係る税制優遇、援助、広報支援の輪を拡大していただきたく考えております。

例) 産官学で創出する循環型ビジネスモデルの提案。(観音寺市内企業)

急激な為替変動に伴う物価高騰等にあっても、環境負荷軽減を前提とした循環型の製造プロセスを構築し、観音寺市から世界へ新しい製造業のビジネスモデルを提案いたします。

◎ 県産大豆開発
香川県内の農家さんとの協業を目指し、地元産大豆の社会価値を再評価する。

◎ 生おから販売強化
副産物の活用、及び製品価格への転嫁。また地元の農産物、調味料メーカーへの供給も継続して、循環型社会の確立を目指します。

◎ 先端設備導入による省人化対策と高齢化社会への対応準備
来る急激な人口減少と高齢化社会にあっても、生産設備の導入により定常的な生産量も白製品の供給体制を整える。

◎ AI技術導入検討
地元高専人材の協力のもと、生産の検点、販売方法の精利をアシスト。高齢者でも操作しやすくなるように検討を進めます。

◎ 工場排水の汚泥肥料
香川県の肥料講習会に参加。大学機関との連携実施、及び循環型プロセスの構築を検討中。

◎ 資源の再販売
使えなくなった豆腐用木箱等を新たに船中として再活用。肥料と合わせてSDGsの取組開始いたします。

◎ 直販事業の強化
従来の製品卸量ではない販路チャネルの確立と、消費者へのブランド認知。

◎ フードバンクへの商品提供
フードロス（欠けた目薬、賞味期限切れなど）を地元フードバンクへ無償提供・処分させていただきます。

例) 観音寺市内へ U ターンした人材の広報支援。

The image shows a collection of promotional materials for 'かんおんじの 創業人' (Kannonji's Entrepreneur). On the left is a newspaper clipping featuring a man in a yellow jacket and the text '高齢者向け 配食サービス' (Elderly-oriented meal delivery service). On the right is a large blue poster with the title 'かんおんじの 創業人' and a man in a suit. Below the poster is a small white box containing text and a QR code.

例) 廃業した地元ゴルフ練習場の再編。スポーツを活用した新たなビジネスモデルを確立し、県外からの人流を確保する施策を開始する。

【その他の意見】

- ・ 都会に負けない給料、待遇の準備が必要。そのためのバックアップ施策を設ける。
- ・ 稼げない、儲からない農業にソーラーシェアリングとエネルギー産業の併用を。
- ・ 農業振興こそ今後の鍵。『みどりの食料システム戦略』への参画を。
- ・ 観光資源や地元企業を総合的に発信できる IT の仕組みづくりを。
- ・ ふるさと納税の充実、投資リターンの仕組み構築。
- ・ 新規創業者への大幅な税金免除。



提言 02.



まちづくり政策に青年経済人の意見を！

審議会委員に「青年部枠」または「世代枠」を創設し

25年後にも責任の持てる計画・政策立案

【概要】

今般、観音寺市総合振興計画を基本とした街づくりが鈍化傾向にあり、その原因は目標と現実の乖離が主な要因であると考えております。中心市街地の再定義づけや振興計画等の見直し、移住希望者や民間事業者をサポートできる政策を再考し、観音寺市街地の活性化を推進すべく提言いたします。

【現状】

前述の総合振興計画や都市計画、令和3年に施工された観音寺市立地適正化計画等について、目指すべき市の将来像や目標と現状との間に大きな乖離があり、かつその計画を推進する政策や規制等がないため、市街地が郊外（都市計画区域の外縁部）に広がり、現在の中心市街地の空洞化を招く結果となっております。

【課題・問題点】

- ① 総合振興計画や都市計画、立地適正化計画等を現実的に推進していくために後押しとなる政策や逆行しないようにするための規制がないこと。

- ② 市街地が郊外に広がることによる公共インフラ（上下水道、電気等）の維持管理コストや使用料金の高騰、並びにサービスの低下が懸念されること。
- ③ 「まんべんなく平等に」ではなく、選択と集中を行い、地域ごとに役割（居住・商業・工業・農林水産業・観光等）を明確に定め、その役割に対応させた計画立案と実施が必要となること。

【提言内容（事業計画案）】

- ① まちづくり政策（総合振興計画、都市計画等）の 審議会委員に観音寺商工会議所青年部 若しくは「世代枠（30歳代～40歳代）」を新設し、25年後も責任が持てる青年経済人の意見を反映させた計画立案を行うことが必須であると考えます。加えて、民間の専門家（建設業、不動産業等）を交え、現状の問題点の洗い出しと具体的な見直しを実行できる体制の構築を提言いたします。

新
設

所属名等	役職名	委員氏名
観音寺市自治会連合会	会長	〇〇 〇〇
観音寺市農業委員会	会長	〇〇 〇〇
観音寺市社会福祉協議会	事務局長	〇〇 〇〇
(中略)		
観音寺商工会議所青年部	※会長に限らず	〇〇 〇〇
世代枠（30代・40代）	※役職に拘らず	〇〇 〇〇

- ② 「中心市街地」についての定義づけを見直しかつ再設定し、当該中心市街地や誘導区域へ「どんな方に来ていただきたいのか」という市の意思表示を明確にした定住及び事業所等進出促進のための政策を提言いたします。

〔定住・進出促進のための政策案概要〕

- 1) 移住者補助金制度の見直し ※基本補助+加算補助をベースとする

(香川県高松市、群馬県桐生市の制度を参考にしております)

- 基本補助額 (例：住宅取得額の○% 上限○万円)

- 中心市街地・誘導区域への移住世帯・出店は加算 (定住・出店促進)

(例：市内移住 ○万円、市外からの移住 ○万円)

※高松市の場合、居住誘導区域内へ移住すれば 補助金 20万円



※引用元：「R5 年度高松市住宅取得支援事業」より

- 若者 U ターン移住は加算

(例：県外から本市へ U ターン移住 & ○歳未満の場合 ○万円)

※高松市、桐生市の場合、東京圏から移住の場合は 世帯 80万円

- 子育て世代は加算 (例：中学生以下の子供一人当たり○万円)

市内業者に業務を発注した場合は加算（建築業者、宅建業者等）

2) 中心市街地・誘導区域の 都市計画税は廃止

③ 市街地が郊外へ拡大し続けるのを抑制する規制、公共インフラ整備に対する
相応の費用負担を定める

・新たに中心市街地や誘導区域外で行われる大型開発や住宅開発を規制し、公共インフラの維持管理コストの増加を招く事案については相応の費用負担(割り増し整備費用、将来の維持管理費の一部前払い等)を求める。

【目指すべき将来像】

- 地域ごとに設定された役割を果たすべく**選択と集中**を行うことにより、市の人口規模に応じたコンパクトな市街地を形成し、公共インフラの維持管理コストの増大やサービス低下を抑制できる。
- まちづくりの後押しとなる政策の導入により、誘導区域、中心市街地への定住や店舗、企業の出店、進出が促進され、民間主導による中心市街地再開発も行われるようになり、**人に選ばれる、持続可能な街として発展**する。
- 結果として、観音寺市の街としての価値や魅力が高まることにつながり、市税収入が増加する。



【その他の意見】

- ・ 観音寺市は四国の中心、全県庁所在地へのアクセスが最もよい立地条件。
- ・ 農業を前提に、日射量が多く災害が少ない広大な平野。
- ・ 特急停車駅で利便性がよく、人口と面積のバランスがよい。
- ・ 「集中と選択」まんべんなく、ではなく地域ごとの役割を定め、役割に応じて発展するインフラ整備。維持管理に係るコストの圧縮。
- ・ 商店街の再考。観音寺市と共に、市内中心部に民間居住設備を拡充し、令和型の商店街の立地推進。空き家の解決と人と人が日常的に交流できる場づくり。
- ・ 環境型社会の形成、ゼロカーボン宣言を前提として、蓄電池、ソーラー設備の拡充。
交通・電動は将来的に水素（マイクロ）バスの導入＋物流。
- ・ 自然を活用した富裕層への別荘誘致。
- ・ 優位な立地条件（水質の良さ、平野が多い）という前提のもと、食品製造業の一大誘致区画を整備したい。（海側 NG、平野内が必須）
- ・ 道の駅構想は今後市政の目玉となる。今のうちから食べ物と地元産品の洗い出しとブラッシュアップを行う。
- ・ 移住者、高齢者、若者、多様な目線がある中で最も住みたいと思う街にするためには、他の市町村との比較も重要になる。
- ・ 観光資源はある、だからこそ住みたいと思う人たちへ届く補助の輪を。

提言 03.

既存の地元資源を利活用！

新たな視点で人との繋がりが生まれる場所づくり

及び 地元資源を輝かせる仕組みづくり

【概要】

ワーキンググループを通じて定住人口増加のための意見を聴取する中で、観音寺市の良い点と悪い点が共通認識として表れてきた。

(良い点)

- ・海山川の自然豊かで都会よりも“住む”には適している。
- ・地域特産品が豊富で美味しいものが沢山ある。
- ・人情味が残る地域風土と人が豊富にある。

(悪い点)

- ・孤独死、育児放棄など人と人が交わらない負のスパイラルが年々増加傾向にある。
- ・資源が豊富でも PR する発信力が不足している。
- ・街の成り立ちが素晴らしいのに、市民がその歴史を知らない。

(他人に良さを伝えられない)

上記を分析すると、“モノ”の資源は豊富に溢れているものの、“ヒト”がその資源を活用できていない課題が浮き彫りとなってきた。そこで本課題を解決するため、以下具体的な行動計画を示し、改善してよりよい街づくりの一助となる仕組みづくりを提言する。

【提言内容（事業計画案）】

●新自治会コミュニティを利用した3世代交流による人育成の場を創出します。

昨今、もはや必要とされる時代ではなくなった、ごみの処分のためだけの加入、などと存在意義を疑問視されている『自治会コミュニティ』。しかし、受益者負担の仕組みづくりを構築し、加入する意義を再定義すれば、これほど3世代交流に適したコミュニティはありません。「孤独の撲滅」「協働の推進」「年齢、性別に関わらず悩みを相談できる場」「つながりを実感できる場」「多様な職種の方が参画できる場」など、多様な可能性を秘めたコミュニティを新たな形へ再編し、人と人とが交流する「人を育てる場」として活用すること、また、そのためにモデルケースとなる自治会を選定し、市が積極的に支援することを提言いたします。

●観光資源を輝かせ PR するために『トイレをきれいにする活動』を開始します。

「寛永通宝」「天空の鳥居」「豊稔池」など、他に類を見ない素晴らしい観光地は市内にいくつも点在しておりますが、観光客の印象に強く残ってしまうのは、

トイレや展望台等の設備がきちんと維持管理できているか、という点です。きれいな場所には想いが宿る。特別ではない、『トイレをきれいにする活動』から始めてまいります。また、寛永通宝の砂ざらえ、ちょうさ祭り等の地元住民中心の行事も有益な資源と捉え、それらを活用した取り組みを推進してまいります。

〔案〕 『パワースポットにダイブ!? 寛永通宝で“砂まみれ”ツアー』

- ・大切に保存され、定期的に清掃・成形作業を行っている寛永通宝に、なんと遠慮なくダイブできるツアーを当会メンバーが発案しました。触れてはならない、という固定概念を大きく変えて、積極的に触れられる内容といたしました。
- ・当該ツアーは有料（入場料）とし、「寛永通宝」の砂ざらえ行事等の前に行います。
- ・入場料収入は市の収入となり、既存の地元資源をしっかり輝かせるため、必要な整備等に使用します。



【その他の意見】

- ・観光資源はある、だからこそ住みたいと思う人たちへ届く補助の輪を。
- ・車社会は当たり前、都会の移住希望の方にとってまずネックになるのは“車”です。
空き家と車、この2点のインフラ整備がキーワードになるのではないのでしょうか。
- ・子どもたちの習い事に支援の輪を。塾、スポーツクラブ、音楽教室、美術、ダンス、など、学びの場に対する投資拡充を。

市内中学生からの“叫び”

※令和5年8月12日開催の観音寺商工会議所青年部創立40周年記念事業『語ろう！叫ぼう！観音寺！』にて、参加された中学生たちが叫んだ内容になります。

- ・家業の畜産業で観音寺市をお肉の美味しい・人気のある街にしたい！
- ・ひとりひとりがごみを拾って綺麗な観音寺中学校・街にしたい！
- ・名物の特産品を開発し、たくさんの観光客に来てもらう！
- ・祭りが大好き！観音寺市合併20周年にちょうさの統一寄せを行い、全国に素晴らしい祭りをPRしたい！
- ・観音寺市の飲食店と協業し、食品ロスを活用するフードデリバリー事業を立ち上げる！さらに有名YouTuberに取り上げてもらい、更なる街のPRを！
- ・大人も子供も楽しめるちょうさ祭り、そんな市内のお祭りすべてを集める『祭り合体計画』。118台の太鼓台をすべて集めて壮大なお祭り計画を！
- ・日本一素敵なお祭り、観音寺市！ボーイスカウトを通じてごみを拾う素晴らしさを体感。市民全員でごみを拾い、金運の街観音寺市を盛り上げよう！
- ・四国の中心に大型商業施設COSTCOを誘致しよう！交流人口の流れをつくり、観音寺市をわくわく、ドキドキする街へ！

政策提言活動のあゆみ

■令和5年2月24日（金） 成功事例学習（徳島県神山町）

『神山プロジェクト～創造的過疎から考える地方創生～』と題し、ご講演いただきました。



■令和5年4月14日（金） 観音寺市政策部企画課 訪問

政策部長 薦田様、企画課長 合田様へ政策提言活動の方針等をご説明しました。

■令和5年5月19日（金） 基本計画学習

出前講座：『観音寺の今を学ぶ』（財政状況と総合振興計画）をご教示いただきました。



■令和5年6月～7月 ワーキンググループ開催

観音寺市内の商工業者から、様々意見や問題意識、提案の声を吸い上げました。



※6月30日には衆議院議員 大野敬太郎様をアドバイザーに迎えて開催いたしました。

■令和5年7月6日（木） 観音寺市教育委員会事務局 訪問

政策提言活動と創立40周年記念事業の趣旨説明並びにご協力をお願いに伺いました。

■令和5年8月12日（土） 観音寺商工会議所青年部創立40周年記念事業

『語ろう！叫ぼう！観音寺！』地元中学生の街への想いを叫び、語っていただきました。



■令和5年10月16日（月） 観音寺商工会議所 正副会頭への説明・報告

政策提言書案の内容のご説明並びに今後のスケジュール等についてご報告いたしました。

■令和5年10月25日（水） 政策提言書説明会（当会メンバー向け）

政策提言書案の内容についてご説明し、出席者からたくさんの意見をいただきました。



■令和5年11月7日（火） 観音寺市政策部企画課 訪問

政策部企画課の皆様へ政策提言案についてご説明させていただきました。



■令和5年11月13日（月） 観音寺市議会 訪問

市議会正副議長、関係者へ政策提言案についてご説明させていただきました。また、同日市議全員に案文を配布いたしました。



■令和5年11月16日（木） 香川県議会議員 城本宏様との意見交換会

香川県議会議員 城本宏様と本政策提言案についての意見交換をさせていただきました。



■令和5年11月20日（月） 香川県議会議員 友枝俊陽様との意見交換会

香川県議会議員 友枝俊陽様と本政策提言案についての意見交換をさせていただきました。



令和5年度政策提言委員会メンバー

<委員長>

秋山 昌己 (株式会社カンショク)

<副委員長>

西山 佳秀 (かんおんじ整体院 “佳”)

藤井 勇作 (株式会社大創)

石山 裕之 (株式会社宇賀商店)

<委員>

五味 義規 (とも八)

仁田 英児 (有限会社三栄産業)

中村 瑠哉 (中丸水産)

今橋 理 (特定非営利活動法人ひまわり)

森岡 秀誠 (株式会社森岡不動産)

荻田 明弘 (株式会社おぎた)

藤田 陽裕 (株式会社藤田商店)

土井 俊典 (土井建設)

中川 晃良 (株式会社久保電機)

<オブザーバー>

庄司 晃弘 (会長/有限会社庄栄不動産)

筒井 正晴 (副会長 兼 専務理事/森永乳業 昭和販売店)

林 知宏 (直前会長 兼 監事/株式会社指寅タンス店)

(敬称略、順不同)

ワーキンググループ協力メンバー

- 土井 俊典 (観音寺 YEG/土井建設)
荻田 康之 (観音寺 YEG/株式会社やこや)
寶田 憲弘 (観音寺 YEG/プルデンシャル生命保険株式会社)
秋澤 昌宏 (観音寺 YEG/株式会社秋澤好行)
宗像 靖子 (むなかた音楽教室)
高橋 智津子 (わくわくパソコン教室)
中上 裕喜 (株式会社紀州屋)
溝渕 一洋 (香川銀行 観音寺支店)
和田 壮平 (三豊コンシェルジュセンター株式会社)

(敬称略、順不同)

特別オブザーバー

- 大野 敬太郎 (衆議院議員)
城本 宏 (香川県議会議員)
友枝 俊陽 (香川県議会議員)
篠原 和代 (観音寺市議会議長〔当時〕)
篠原 重寿 (観音寺市議会副議長)
立石 隆男/豊浦 孝幸/井下 尊義/合田 千佳子/大平 直昭 (観音寺市議会創風会)
齋藤 明里/今城 あおい/石田 ゆきの/石川 舞花/福田 紗也 (大野原中学校)
荻田 悠雅/中村 雅 (観音寺中学校)
井上 陽翔/合田 奏 (豊浜中学校)
大谷 優介/守谷 冬渉 (中部中学校)

(敬称略、順不同)

【令和5年12月11日(月)時点】

参考資料

■令和5年度～高松市住宅取得支援事業～

■東京圏から高松市へ移住された方へ 【R5年度版】

(移住支援金)

■きりゅう暮らし応援事業（住宅取得応援助成）

～補助金のご案内～